

高齢者の転倒と薬について

横浜掖済会病院 薬剤部長 南里 恭子

1 はじめに

近年高齢者の転倒が多くなってきており、また転倒の結果骨折して、寝たきりになってしまうという事例が多くみられます。高齢者の転倒には、いろいろな原因があると思われれますが、内服している薬が原因の転倒も多くみられます。

転倒をおこしやすい薬と転倒時に注意しなければいけない薬について、説明します。

2. 転倒の原因

(1) 外的要因には以下があげられます。

①履物

脱げ易いもの、滑りやすいもの

②床の状態

段差、足元の明るさ

③明るさ

夜間等の足元の明るさ

④床の障害物

電気コード、カーペット

(2) 内的な要因には以下があげられます。

①体の変化

力が弱くなる ⇒ バランスが悪くなる
視野、視力が悪くなる。
感覚が鈍る

②精神、心理面

焦り・不安 ⇒ 緊張、興奮

3. 薬が転倒の原因となる理由

高齢者には次のような特徴があるため、薬の副作用には注意する必要があります。

①複数、多数の薬を服用している

②内臓の機能が低下しているため、副作用が出やすい。

③薬を飲み始めてから、体調の変化があっても家族に伝えない。

4. 転倒を引き起こす主な副作用の薬剤

高齢者が転倒するような副作用のある薬は、決して特殊薬ではなく、通常、病院で処方されている薬が多い為、以下の副作用には注意が必要です。

高齢者の状態	薬剤	転倒の原因となる作用
高血圧	血圧降下薬	めまい・ふらつき
風邪	抗ヒスタミン薬	眠くなる・ボーっとする
睡眠障害	睡眠薬	ふらつく
認知症	抗精神薬	脱力感 筋肉の緊張低下

5. 転倒時に注意が必要な薬

転倒した時に以下の薬を服用していると出血、骨折等の注意が必要です。

①血液をサラサラにする薬（抗凝固薬 抗血小板薬）

転倒時に伴う出血に注意する必要があります。

②ステロイド製剤

長期服用により骨粗鬆症の危険性を高める事があります。

（骨粗鬆症になると、骨折の危険性が高まります。）

6. 内臓機能の低下による薬の蓄積

薬は仕事を終えた後、肝臓で体の外へ排出されやすい形に変換され、腎臓から外へ排出されます。

高齢者は加齢とともに、肝臓、腎臓の機能が衰えていきます。

そのため、薬が効きすぎたり、副作用の危険性が高くなります。

薬は、効果があることは大切ですが、役目を終えたら、速やかに体の外へ排出されることも大切です。

7. 転倒のリスクが高い薬を服用する時の注意

① 薬の使用上の注意をよく読み、服薬の指示にしたがいましょう。

② どんな薬を、いつから、どのくらい飲んでいるか「お薬手帳」に記録することをお勧めします。

③ 薬を飲み始めてから変化がないか（ろれつがまわらなくなる、ボーっとするようになった、意欲がなくなる等、だるそうだといいた症状）周囲の目で確認しましょう。様子が、おかしいと感じたときは薬剤師や医師に相談してください。

8. 最後に

服用している薬が、転倒のリスクがある可能性が高い場合もありますが、自分本位で薬を中止してしまい、治療している病気が悪化してしまう事もあります。薬を服用していて、転びやすくなった等の症状があらわれたら必ず主治医へ相談して下さい。

横浜掖済会病院

〒231-0036 神奈川県横浜市中区山田町1-2

TEL 045-261-8191

FAX 045-261-8149

<http://www.yokohama-ekisaikai.com/>